

平成21年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	専門学校のエデュケーション機能を活かした留学生支援モデルの構築		
法人名	学校法人 宮崎総合学院		
学校名	大原簿記公務員専門学校		
代表者	理事長 川越宏樹	担当者 連絡先	植松修一 0985-22-0658
1. 事業の概要			
<p>平成20年7月1日に閣議決定された「教育振興基本計画」においては、「留学生受け入れについては、2020年の実現を目途とした『留学生30万人計画』を関係府省が連携して計画的に推進し、高度人材受け入れとも連携させながら、留学生の就職支援等を進め、留学生受け入れを拡大させる」こととされている。さらに『留学生30万人計画』骨子においては、留学生の受け入れ環境づくりや、卒業・修了後の社会の受け入れの推進のため、産学官が連携した就職支援や起業支援の充実などがうたわれている。</p> <p>こうした背景には、中曽根内閣の時に当時は1万人程度であった留学生の数を10万人まで拡大させたいという計画（1983年）を立て、以来20年余を経てようやく12万人に迫る数に達しつつあるという実状がある。</p> <p>一方本県においては、宮崎大学等への留学生の数は121人（平成19年5月1日現在）と全国最下位という現状であり、加えて日本語科を有する専門学校が昨年度末で閉校に追い込まれ、九州では唯一日本語教育機関がない県となっている。</p> <p>こうした状況をふまえ、国の掲げる『留学生30万人計画』への地方からの底上げの取り組みの一つとして、この度の事業を実施し、留学生支援という観点に立った支援モデル（教育プログラム）の開発を行った。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①開発したプログラム・教材・教育手法等の概要			
<p>本事業における留学生支援モデルの構築の前提となる、プログラムの開発を行うために、プログラム分科会を設置し、アンケート調査の実施及び分析結果についての調査分析分科会からの報告を受け、留学生を巡る実態を把握した上で、実証講座に向けてのプログラムの検討及び開発を行った。</p> <p>具体的なプログラムについては、「日本語スキルアップ講座」、「日本文化セッション」、「キャリアセミナー」、「留学生のためのキャリアデザイン」及び「留学生を交えての意見交換会」の5つのカテゴリーで開発を行った。</p> <p>プログラムの詳細な内容及び効果等については、実証講座の項に述べる。</p>			
②ニーズ調査等（手法・期間・効果）			
<p>今回の事業を推進するに当たり、留学生に関する教育環境の実態を把握、及びニーズを把握するためにアンケート調査を行った。調査対象は、大学・専門学校・日本語学校に在籍する留学生及び指導教職員、宮崎県内の企業、海外（中国・韓国）の教育機関の在籍生であり、アンケート調査の概要は次のとおりである。</p> <p>1. 留学生 501件</p>			

専門学校（富山県・福岡県・大分県）、日本語学校（岡山県）、大学（宮崎県）
[調査事項] ①日本語能力についての自己評価 ②生活上の不安 ③卒業後の進路
④日本企業への就職についての不安 ⑤支援策についての要望 ほか

2. 指導教職員 98件

専門学校（富山県・福岡県・大分県）、日本語学校（岡山県・東京都）、大学（宮崎県・福岡県）

[調査事項] ①留学生の日本語能力評価 ②支援策についての要望 ③卒業後の進路指導
ほか

3. 企業人事担当者 88件

宮崎県内の企業

[調査事項] ①採用実績等留学生の雇用状況 ②留学生に求める資質 ほか

4. 日本語科を有する海外教育機関の在学生（中国・韓国） 800件

[調査事項] ①留学希望先 ②留学情報の入手方法 ③留学先での就職 ④支援策について
の要望 ほか

③実証講座の状況

今回の事業で開発したプログラムの合目的性を検証するために、宮崎・福岡の両会場において実証講座を実施した。その概要は次の通りである。

【宮崎会場】

実施会場：エアラインホテル

期 日：平成22年2月16日・17日

[プログラム]

○2月16日（火）

★「日本語スキルアップ講座」

講師：緒方千恵（日本語学校 日本語教師）

I. 自分をアピールする！ II. 新聞記事を読み取る

★「日本文化セッション」

講師：海野るみ（宮崎大学国際連携センター 准教授）

I. これまでの経験を話そう II. こんな時どうする？

○2月17日（水）

★「キャリアセミナー」

講師：井上奈美子（筑紫女学園大学学生支援センター 学生課長補佐）

I. 「就職活動の準備」 II. 「エントリー」 III. 「面接」

★講演：「留学生のためのキャリアデザイン」

講師：村岡浩司（タリーズコーヒー）

★意見交換会

行政、支援団体、企業代表者を交えて留学生への支援について意見交換会を実施

[参加者の属性]

性別 男性 2名・女性 3名 計 5名

所属 宮崎大学及び南九州短期大学留学生 ほか

出身国 中国 2名・台湾 1名・モンゴル 1名・アイルランド 1名

【福岡会場】

実施会場：サンライフホテル

期 日：平成22年2月24日

[プログラム]

○2月24日（水）

★「日本語スキルアップ講座」

講師：衛藤利絵（宮崎大学 日本語講師）

「商品をアピールしよう」

★「日本文化セッション」

講師：海野るみ（宮崎大学国際連携センター 准教授）

「こんな時どうする？」

[参加者の属性]

性別 男性 20名・女性 9名 計 29名

所属 麻生外語観光&製菓専門学校及び専門学校麻生工科自動車大学校留学生

出身国 中国 26名・台湾 2名・フィリッピン 1名

④その他

特記事項なし。

3. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

今回の事業においては、留学生支援モデル（支援プログラム）の開発を主眼としたが、その具体的な講座としては、調査分析分科会によるアンケート調査及び分析、プログラム分科会によるプログラム開発の過程を経て、「日本語スキルアップ講座」、「日本文化理解講座」、「就職支援講座」の3つの講座に集約する形で精選を行った。

これらの講座を、さらにプログラム展開したわけであるが、各プログラムの目的等を含む実施要項、レジュメ、教材資料等については、成果物としての報告書に記載してあるので、そちらをご参照いただきたい。

ただ、そうしたプログラムの実施に伴う目標達成状況としては、諸事情により実証講座における福岡会場での「日本語講座」（受講生数29人）の実施後アンケート調査しか実施できなかったが、「授業は楽しかったですか？」との問いに、楽しかった25人・少し楽しかった4人、「授業の内容は役に立ちましたか？」の問いに、役に立った23人・少し役に立った6人、と全員が肯定的に答え、そして、「授業の難易度」については7割（20人）の留学生が、ちょうど良いと回答してくれていることから、今回開発したプログラムについては、合目的性という観点からも妥当であったと考えられる。

②事業の成果

今回の事業の成果については、次項（③次年度以降における課題・展開）及び次々項（④成果の普及）に細述しているが、概括的に述べると、留学生の数が過去4年連続全国最下位という本県の状況から脱却するための方向性を見極めるための調査研究、そして九州では唯一日本語教育機関がない本県において、新たに日本語教育機関を設立することにより、『留学生30万人計画』への地方からの底上げの取り組みの一つとして、この度の事業の実施で得られた成果を活かしたいと考えている次第である。

③次年度以降における課題・展開

事業の概要の項にも触れているように、平成20年(2008年)7月1日に閣議決定された「教育振興基本計画」においては、2020年の実現を目途とした『留学生30万人計画』を、関係府省が連携して計画的に推進することがうたわれている。

しかしながら、国によるこうした基本計画を実現させるためには、単純計算でも2008年の留学生数123,829人から、2020年まで右肩上がり対前年比+7.7%の伸びがなければ達成できない数値目標であり、2008-2009年の計画初年度の伸びこそ+7.2%であったものの、近年の世界的経済の閉塞状況を鑑みるに、実現困難であろうと思われる。

一方本県においては、宮崎大学等への留学生の数は、過去4年連続全国最下位という状況であり、加えて日本語科を有する専門学校が昨年度末で閉校となり、九州では唯一日本語教育機関がない県となっている。

こうした状況をふまえ、地方における『留学生30万人計画』への取り組みの一つとして、この度の事業の実施で得られた成果を元に、諸課題を克服しながら、宮崎大学を初めとする関係機関のネットワークを発展的に展開することにより、新たな日本語教育機関の創設をも企図しているところである。

④成果の普及

今回の事業に係る成果報告会の開催状況については、次の通りである。なお、参加者数については、今回の事業参加校及び関係者、県内の留学生受入機関及び国際交流団体等の関係者、総計32名であった。

【日時】平成22年3月1日（月） 14:00～15:00（13:45 受付開始）

【会場】ニューウェルシティ宮崎 2F「関之尾」（宮崎市宮崎駅東1-2-8）

時間	プログラム	講師
14:00～14:05	開会挨拶	
14:05～14:30	留学生に関する実態調査概要	河野まちづくり計画事務所 所長 河野 敏郎
14:30～14:55	留学生支援プログラム 及び実証講座	宮崎大学国際連携センター 准教授 海野 るみ
14:55～15:00	閉会挨拶	

〈事業概要〉

今回の事業を推進するに当たり、大学・専門学校・日本語学校に在籍する留学生および指導教職員、宮崎県内の企業、海外の教育機関の在籍生を対象にアンケート調査を実施し、アンケート結果を踏まえて、3講座のプログラムを作成し、実証講座の実施によりプログラムの合目的性の検証を行った。アンケート調査及び実証講座の概要は次のとおりである。

【アンケート調査】

1. 留学生 501件
専門学校（富山県・福岡県・大分県）、日本語学校（岡山県）、大学（宮崎県）
調査事項 ①日本語能力についての自己評価 ②生活上の不安 ③卒業後の進路
④日本企業への就職についての不安 ⑤支援策についての要望 ほか
2. 指導教職員 98件
専門学校（富山県・福岡県・大分県）、日本語学校（岡山県・東京都）、大学（宮崎県・福岡県）
調査事項 ①留学生の日本語能力評価 ②支援策についての要望
③卒業後の進路指導 ほか
3. 企業人事担当者 88件
宮崎県内の企業の人事担当者
調査事項 ①採用実績等留学生の雇用状況 ②留学生に求める資質 ほか
4. 日本語科を有する海外教育機関の在籍生（中国・韓国） 800件
調査事項 ①留学希望先 ②留学情報の入手方法 ③留学先での就職
④支援策についての要望 ほか

【支援プログラム】

「日本語スキルアップ講座」・「日本文化理解講座」・「就職支援講座」

【実証講座】

1. 宮崎会場 2月16日（火）・17日（水） エアラインホテル（宮崎市）
2. 福岡会場 2月24日（水） サンライフホテル（福岡市）

また、成果物としての報告書については、500部作成予定であり、配付対象先としては、今回の事業参加校及び関係者、宮崎県国際交流協会協力団体、宮崎地域留学生交流推進協議会会員、全国の日本語科を有する専門学校を中心とした主要専門学校等を予定している。